

ブルーシートタープ張り

真夏の日差しを遮ったり、荷物が雨に濡れないための屋根を張る技術はレジャーだけではなく災害時にも多岐にわたり活躍します。

MENU

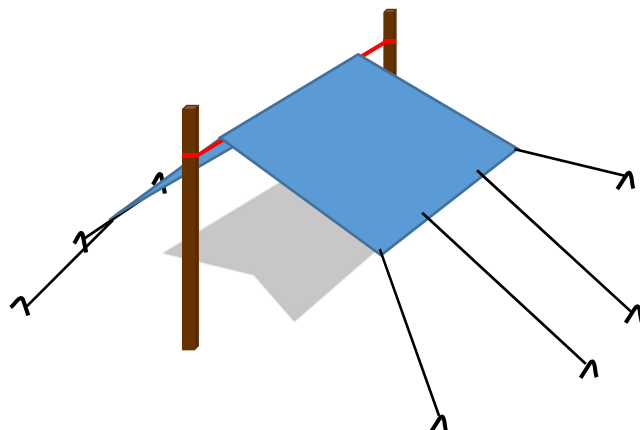
【 STEP 1 】

木や柱を使った方法

【 STEP 2 】

ポールを自立させて張る方法

【STEP1】木や柱を使った方法・・・ 難易度★★☆

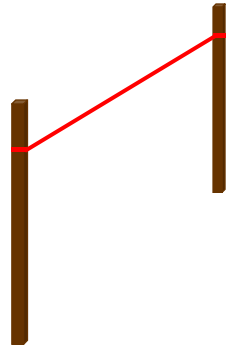


<準備する物>

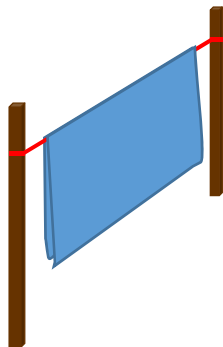
<p>ブルーシートはと目付 (正方形、長方形どちらでも可)</p>	<p>1枚</p>	
<p>ロープ ブルーシートを掛けるためのロープ (ロープを結び付ける木や柱の間隔 + 2m程度の長さ)</p>	<p>1本</p>	
<p>ビニール紐 など ※ビニール紐以外でも大丈夫 1～2m程度の長さ (ブルーシート)</p>	<p>8本</p>	
<p>ペグまたは重りなど</p>	<p>8個</p>	 <p>ペグ 重り・石 土のう</p>

<作り方>

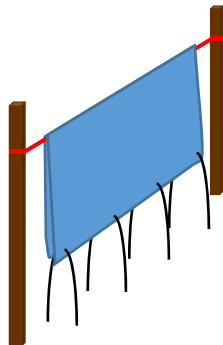
- 1 木や柱にロープを張ります。
※結び方は「巻結び」や「引き解き結び」など
(結び方は「アウトドア防災プログラム1 ロープワーク」を参照してください。)



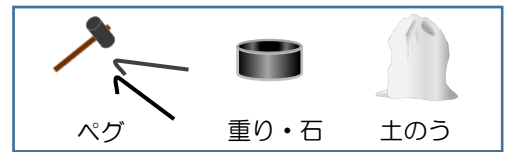
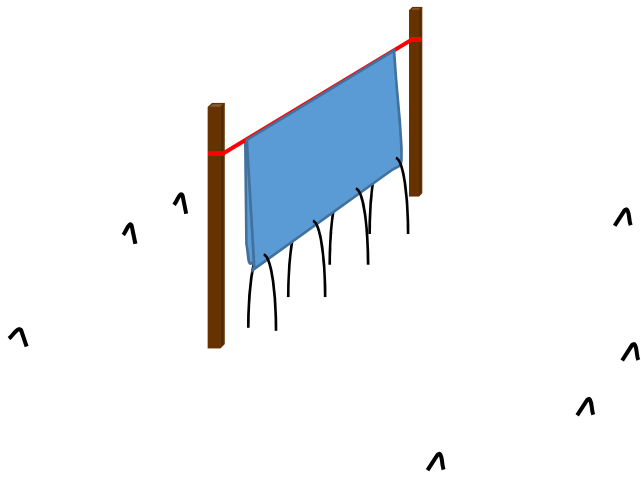
- 2 張ったロープにブルーシートがちょうど半分くらいになるように掛けます。



- 3 ブルーシートのはと目に紐を結び付けます。(8か所)



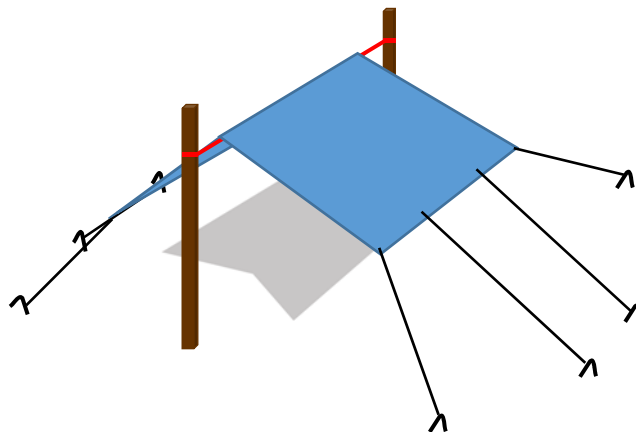
- 4 ブルーシートを広げるため、地面にペグを打ちます。
(ペグが打てない場合は重りなどで代用)



ペグはロープの引っ張られる方向に
抵抗が掛かる向きに打ちましょう

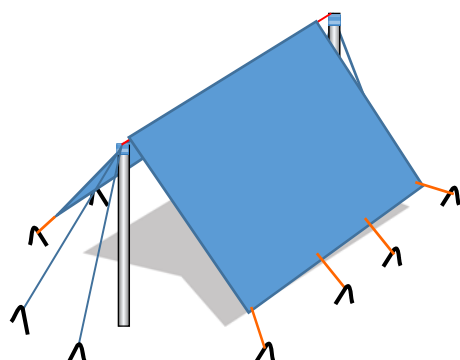


- 5 重りやペグに紐を結び付けて完成です。



【STEP2】ポールを自立させて張る方法・・・ 難易度★★★

※2人以上でやることをおすすめします。



<準備する物>

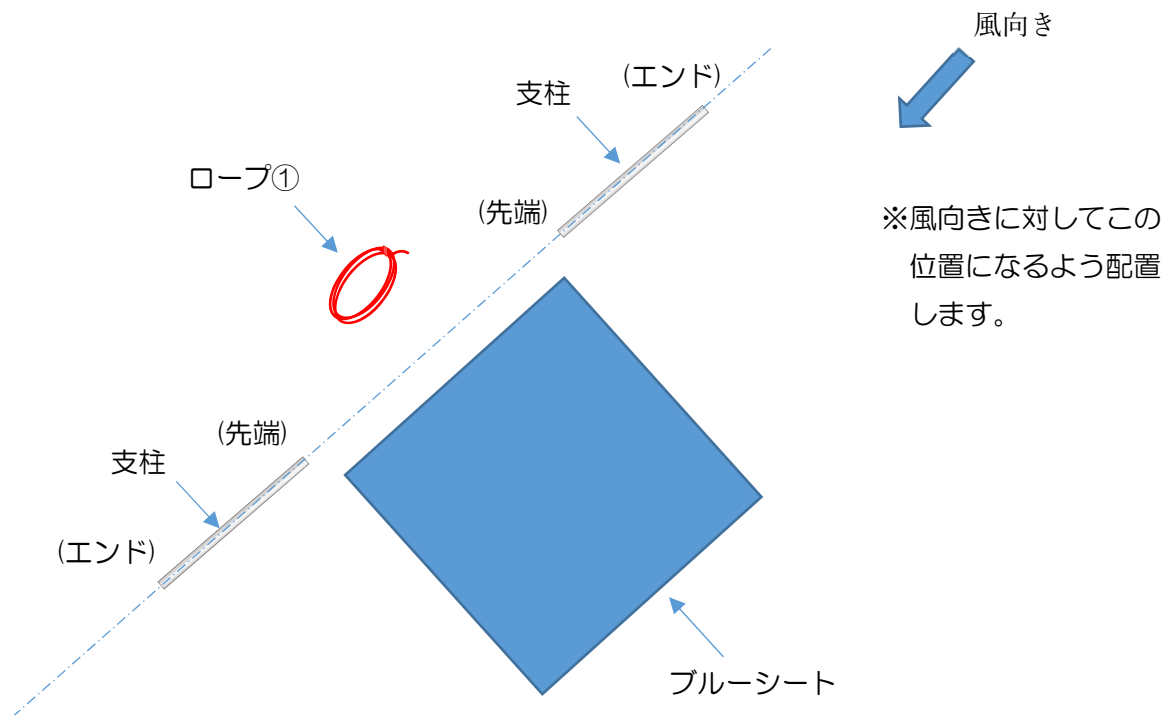
ブルーシートはと目付 (正方形、長方形どちらでも可)	1枚	
支柱 (タープ用ポール、物干しざお、木材など)	2本	
ロープ①※ ブルーシートを掛けるためのロープ (ブルーシートの幅+2m程度の長さ)	1本	
ロープ② 支柱を自立させるためのロープ (支柱の長さ+2m程度の長さ 各支柱2本使用)	4本	
ビニール紐 など (1~2m程度の長さ) ※ビニール紐以外でも大丈夫	8本	
ペグまたは重りなど	10個	   ペグ 重り・石 土のう

※支柱にタープ用ポールを使用する場合は、ロープ①は必要ありません。

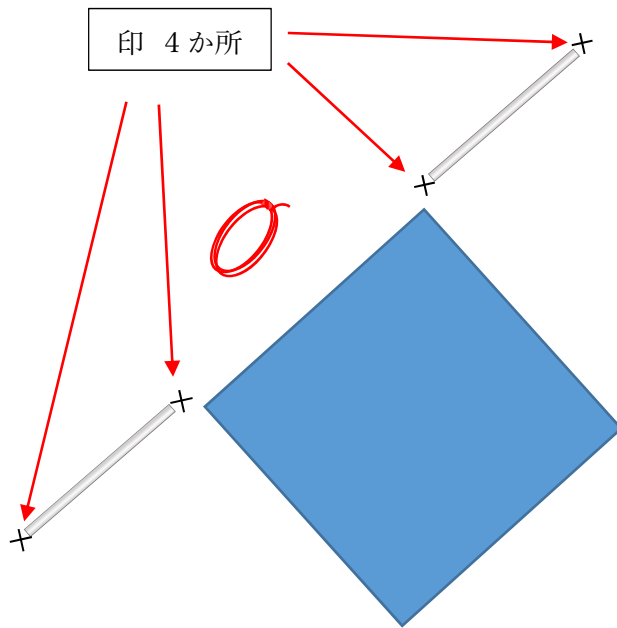
<作り方>

- 1 タープを張る位置にブルーシート、支柱（2本）、ロープ①を下の絵のように並べます。

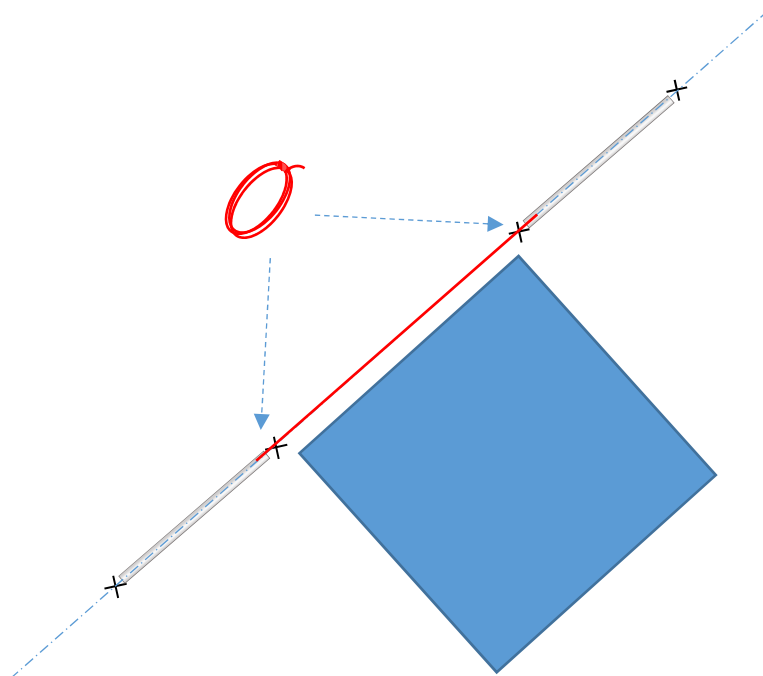
※2本の支柱はブルーシートが入る間隔でかつ、支柱の先端からエンドの部分が1直線になるように置くのがポイントです。



- 2 置いた支柱の先端とエンドの部分の地面に印をつけます。
(印は地面に直接描く、または、目印になるものを置くなど)



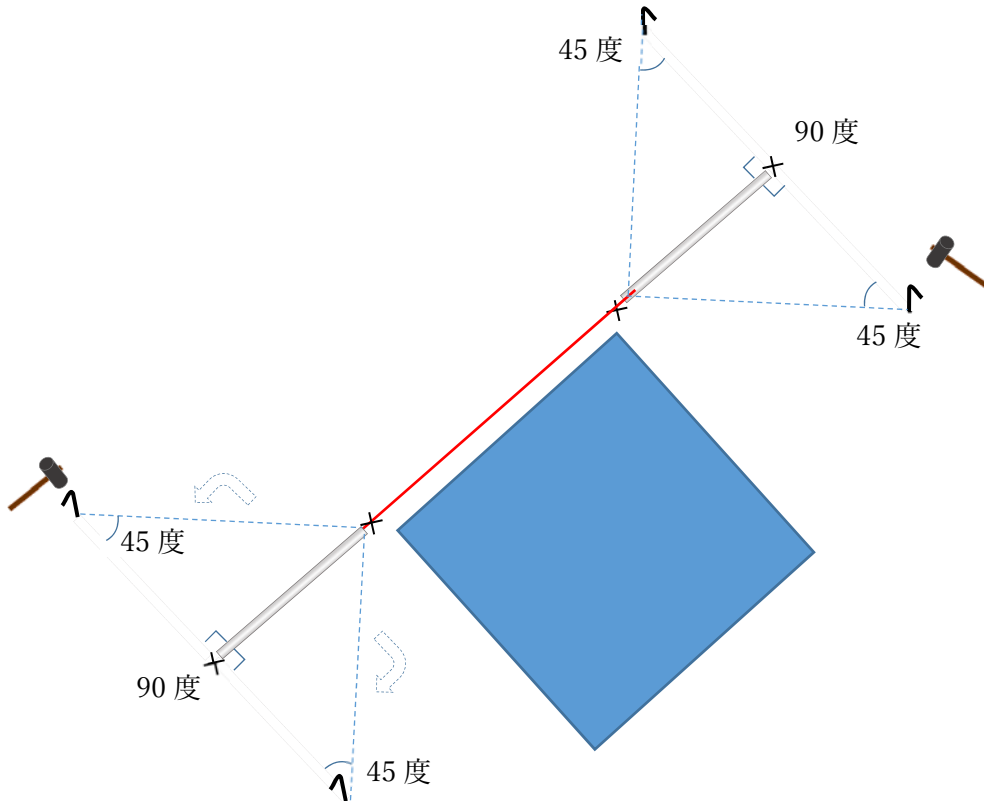
- 3 ロープ①を2本の支柱に結び付けます。
(ロープを結び終わったら支柱を元の位置に戻します。)



※タープ用ポールを使用する場合はロープ①は必要ありません。
支柱の先端部分にブルーシートのはと目を入れればOKです。

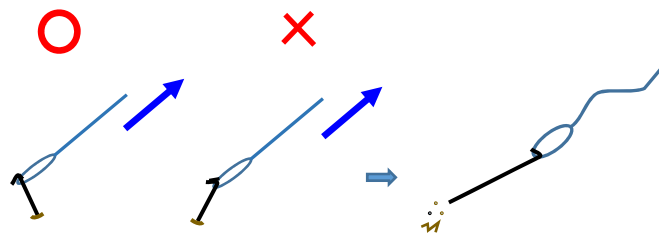
4 支柱を立てるためのペグを打ちます。(ペグは支柱とロープ②を固定するやめのものです)。

(ペグが打てない場合は重りなどで代用)

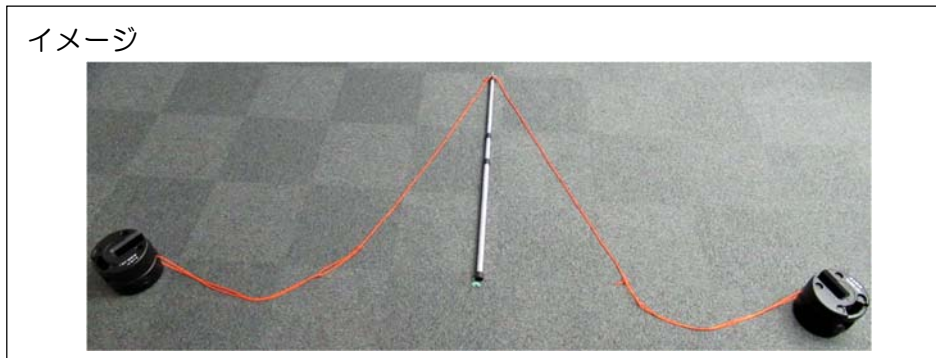


- ①支柱をエンドの部分を中心に90度向きを変えます。
 - ②支柱の先端の位置にペグを打ちます。(または、重りを置く)
 - ③ペグを打ったら支柱のエンド部分を中心に180度(反対側)に向きを変えます。
 - ④支柱の先端の位置にペグを打ちます。(または、重りを置く)
 - ⑤支柱を最初の位置に戻します。
- (支柱を立てた際のロープの角度が、支柱が安定しやすい45度の角度となります)

※ペグはロープの引っ張られる方向に抵抗が掛かる向きに打ちましょう



- 5 支柱の先端部分とペグにロープ②をそれぞれ結び付けます。
 この時にピンっとロープを張ってしまうと支柱が立ちません。結び付けたロープ②が、支柱の長さよりも長くなるよう余裕を持たせます（支柱の長さ+1m程度）。

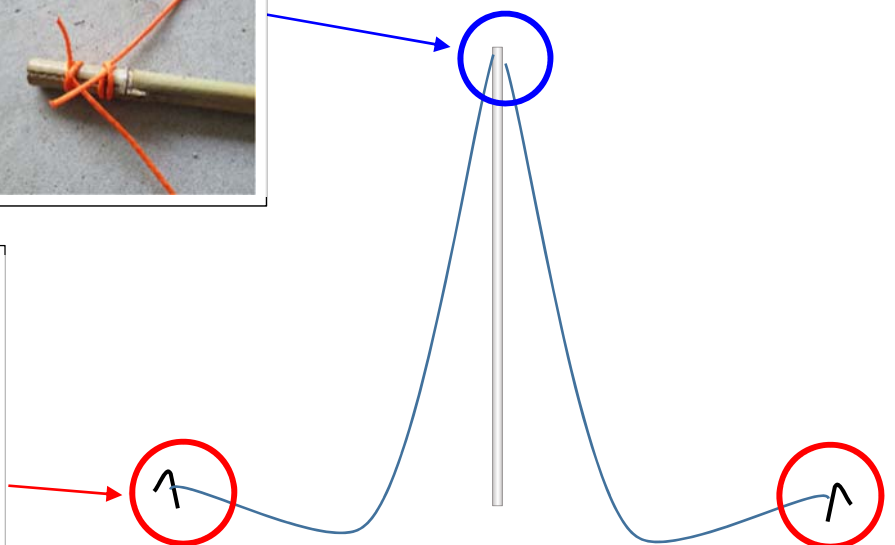


※支柱（先端）側の結び方は、タープ用ポールの場合は、先端にタープやロープを掛けるための突起があるので、「二重8の字結び」や「もやい結び」など、ロープに輪を作って引っ掛ければOK

先端が引っ掛ける形状となっていない支柱（物干しざお、木材など）を使用する場合は、「巻結び」や「引き解き結び」などで直接、支柱に結び付けます。

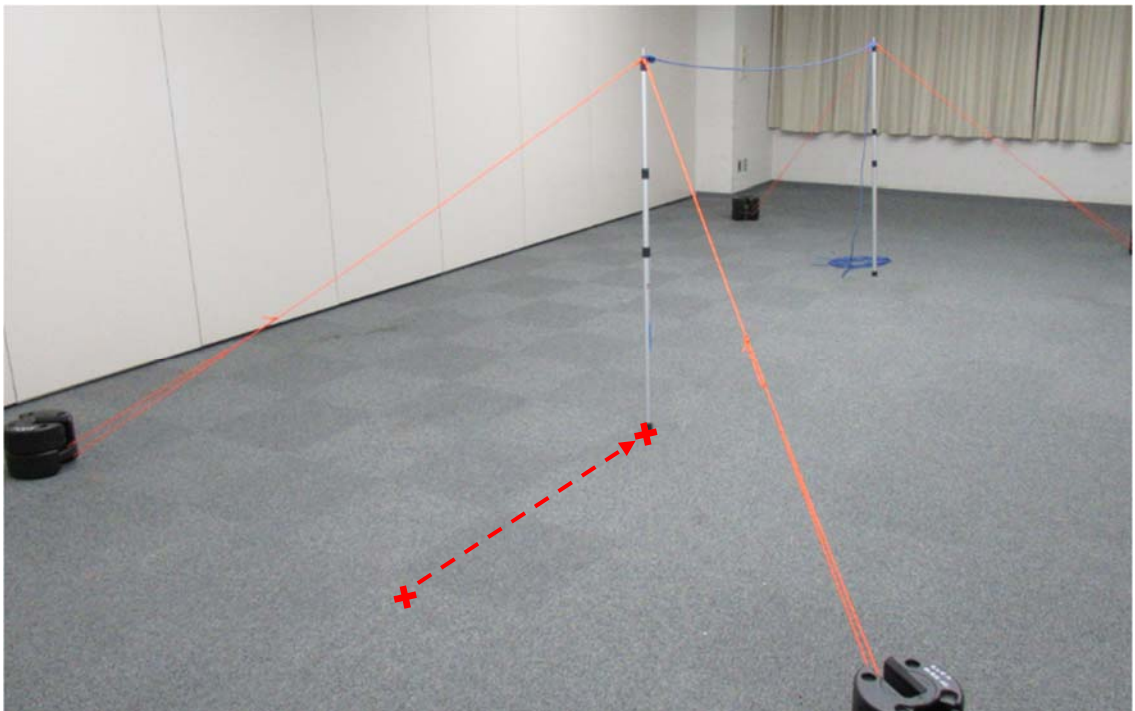
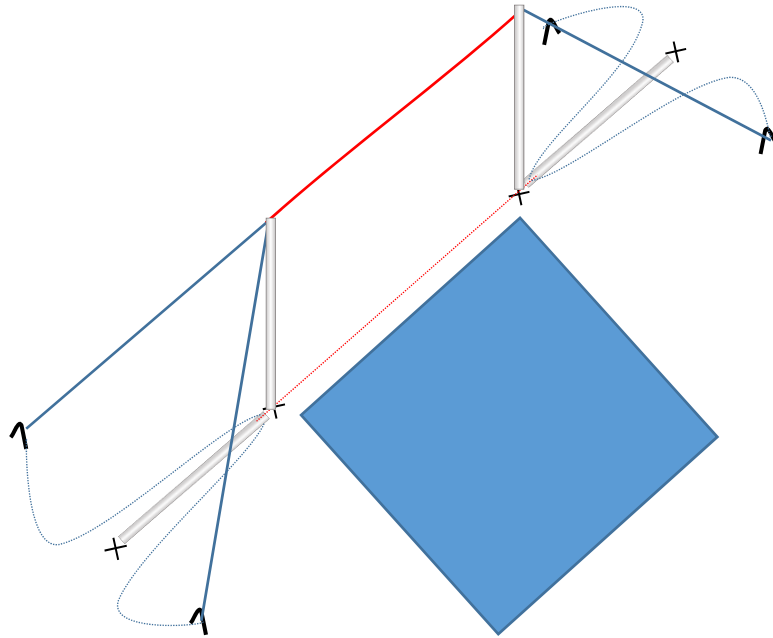
※ペグ側の結び方は、支柱を立てた際に、長さの調整が必要となるので、「自在結び」がおすすめです。

※それぞれの結び方は「アウトドア防災プログラム1 ロープワーク」を参照してください。



6 支柱を1本ずつ垂直に立てます。

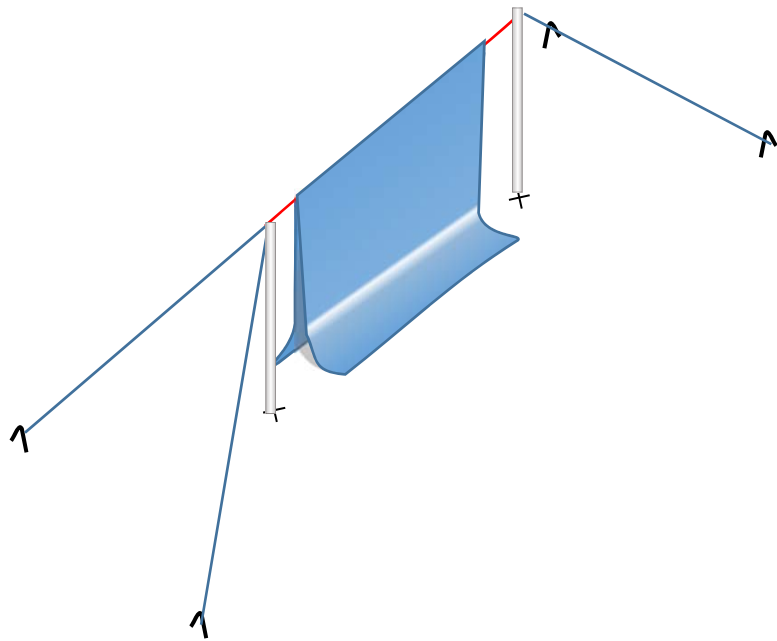
支柱を立てる位置は地面につけた支柱の先端部分の印に支柱のエンド部分が来るよう立てます。



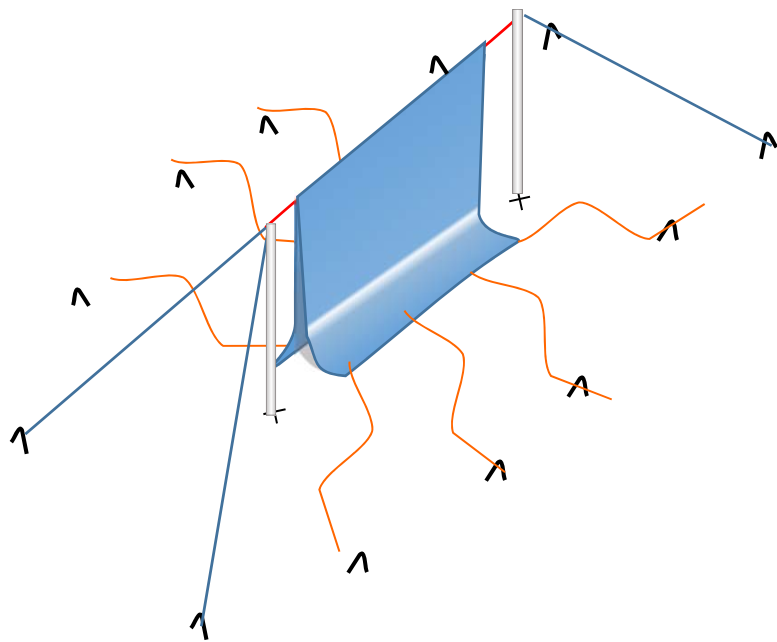
支柱のエンド部分を支柱先端の位置につけた印をめがけて支柱を起こしながら移動させます。

支柱を立てた際に、支柱とペグを結び付けたロープの張りを調整します。
(支柱を2本立てた時にそれぞれのロープがピンと張れているか確認し、張れていなければそれぞれのロープの張りを調整します。)

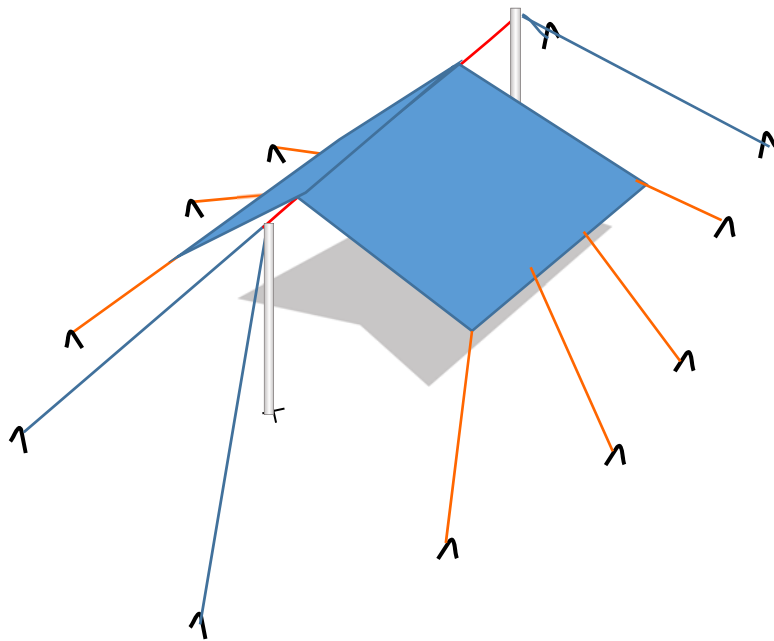
- 7 張ったロープ2にブルーシートがちょうど半分くらいになるように掛けます。



- 8 ブルーシートの両側のはと目にビニールひもなどを結び付け、ブルーシートを広げるため、地面にペグを打ちます。
(ペグが打てない場合は重りなどで代用)



9 重りやペグに紐を結び付けて完成です。



<ポイント>

支柱を支えているロープを結び付けるペグの固定が弱い（重りが軽い）と、ブルーシートを広げた際にペグが抜けて（重りが動いて）、支柱が倒れる場合があります。

地面にしっかりペグを打ち、支柱を頑丈に立たせることが、うまくいく最大のポイントです。